



令和5年度 農福連携等応援コンソーシアム総会

# 農福連携の支援策等について

令和5年7月26日

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課  
農福連携推進室

# 農福連携の取組促進に向けた支援策

# 農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策）のうち 農山漁村発イノベーション推進・整備事業（農福連携型）

令和5年度予算額 9,070（9,752）百万円の内数

## 取組のポイント

農福連携の一層の推進に向け、障害者等の農林水産業に関する技術習得、障害者等に農業体験を提供するユニバーサル農園※の開設、障害者等が作業に携わる生産・加工・販売施設の整備、全国的な展開に向けた普及啓発、都道府県による専門人材育成の取組等を支援します。

## 事業目標

※ 農業分野への就業を希望する障害者等に対し農業体験を提供する農園

農福連携に取り組む主体を新たに創出（3,000件〔令和6年度まで〕）

## 事業の内容

## 事業イメージ

### 1. 農山漁村発イノベーション推進事業（農福連携型）

#### ① 農福連携支援事業

障害者等の農林水産業に関する技術習得、作業工程のマニュアル化、ユニバーサル農園の運用、移動式トイレの導入等を支援します。

事業期間：2年間

交付率：定額（上限150万円等）

#### ② 普及啓発・専門人材育成推進対策事業

農福連携の全国的な横展開に向けた取組、農福連携の定着に向けた専門人材の育成等を支援します。

事業期間：1年間

交付率：定額（上限500万円等）

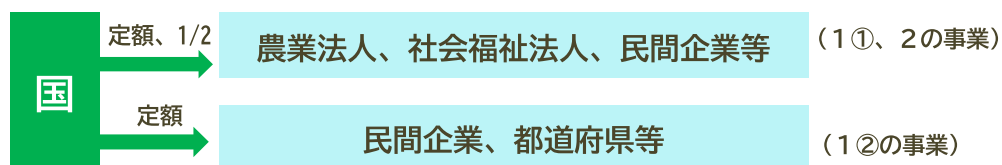
### 2. 農山漁村発イノベーション整備事業（農福連携型）

障害者等が作業に携わる生産施設、ユニバーサル農園施設、安全・衛生面にかかる附帯施設等の整備を支援します。

事業期間：最大2年間

交付率：1/2（上限1,000万円、2,500万円等）

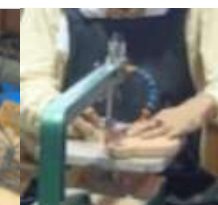
#### 関連事業



農産加工の実践研修



養殖籠補修・木工技術習得



移動式トイレの導入



ユニバーサル農園の運用



普及啓発に係る取組



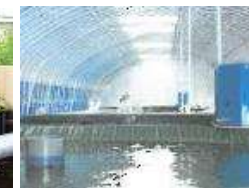
人材育成研修



農業生産施設  
（水耕栽培ハウス）



苗木生産施設



養殖施設



休憩所、トイレの整備



園地、園路整備



処理加工施設

# 農山漁村発イノベーション推進・整備事業（農福連携型）

- 農福連携に取り組む農業法人や福祉サービス事業者等に対するソフト・ハード一体的な支援
- 都道府県が行う専門人材の育成等を支援

## 農福連携の取組

### 【事業実施主体】

- ・ 農林水産業を営む法人
- ・ 社会福祉法人
- ・ 医療法人
- ・ 特定非営利活動法人
- ・ 一般社団法人
- ・ 一般財団法人
- ・ 公益社団法人
- ・ 公益財団法人
- ・ 地域協議会※
- ・ 民間企業 ほか

※地域協議会の構成員に市町村を含むこと  
※※個人に対する助成はできません※※

- ・ 課題の把握
- ・ 事例の蓄積

- ・ 専門人材による助言

### 都道府県

- 農福連携に取り組もうとする農業法人と福祉事業所のマッチングや職場定着を支える専門人材を育成・派遣

- このほか、全国的な普及啓発や官民一体での取組により農福連携の認知度の向上及び取組を促進。

実践団体への支援

都道府県への支援

## < ソフト対策 >

### 推進事業（農福連携型のうち農福連携支援事業）

#### 技術習得や分業体制の構築

作業の効率化や生産物の品質向上等、農福連携を持続するための取組、ユニバーサル農園※<sup>1</sup>の開設、移動可能なトイレのリース導入に必要な経費等を支援

- 専門家の指導による農産物等の生産技術、加工技術、販売手法、経営手法等の習得を行うための研修、視察等
  - 職業訓練的体験を提供するユニバーサル農園の運用初期に必要な管理・指導者の配置、農産物栽培に要する消耗資材等
  - 分業体制の構築、作業手順の図化、マニュアル作成
- （注）雇用・就労する障害者等の賃金や法人運営費は助成対象外

事業実施期間：2年間  
（+自主取組：1年間）  
交付率等：定額  
上限：150万円／年  
300万円／年※<sup>2</sup>  
（マニュアルを作成する場合は初年度に40万円を加算）

※<sup>1</sup> 農業分野への就業を希望する障害者等に対し、農業体験を提供する農園。

※<sup>2</sup> 整備事業（農福連携型）〔ハード対策〕のメニューのうち「経営支援」を実施する場合。

※原則、併せ行うこと

## < ハード対策 >

### 整備事業（農福連携型）

#### 農林水産物生産施設等の整備

障害者や生活困窮者の雇用・就労、高齢者の生きがいづくりやリハビリを目的とした農林水産物生産施設（農園、園路の整備を含む）、農林水産物加工販売施設※<sup>3</sup>、休憩所、衛生設備、安全設備等の整備

事業実施期間：2年以内  
交付率等：1／2  
上限：下記のとおり※<sup>4</sup>

※<sup>3</sup> 加工販売施設に供する農産物等は事業実施主体及び連携する者が生産したものが過半を占めること。

※<sup>4</sup> 各メニューの上限額：簡易整備（200万円）、介護・機能維持（400万円）、高度経営（1,000万円）、経営支援（2,500万円）

### 【推進事業（農福連携型のうち農福連携支援事業）及び整備事業（農福連携型）の主な要件】

農林水産分野の作業に携わる、障害者、生活困窮者（就労に向けた支援計画策定者）、高齢者（要介護認定者）を事業実施3年目までに5名以上増加させること。ただし、生活困窮者については障害者との組み合わせであって、過半数が障害者であること。

## < ソフト対策 >

### 推進事業（農福連携型のうち都道府県専門人材育成支援事業）

#### 農福連携を支援する人材の育成

農林水産業の現場における障害者の雇用・就労に関してアドバイスする専門人材（農福連携技術支援者）※<sup>5</sup>、障害者就労施設等による農作業請負（施設外就労）のマッチングを支援する人材（施設外就労コーディネーター）等の育成

事業実施期間：1年間  
交付率等：定額  
上限：500万円／年

※<sup>5</sup> 農林水産省のガイドラインに基づく研修を受講し、認定された者

# ユニバーサル農園の開設とその支援について

- ユニバーサル農園とは、身近で農業に参画できる市民農園（農業体験農園）の活用を通じて、多世代・多属性の交流・参加の多様な場を農業を通じて生み出すとともに、生きがいづくりや精神的な健康の確保等の様々な社会的課題の解決にも資することを目的とするもの。
- ユニバーサル農園を通じて、多世代・多属性の参加者が、農業の持つ様々な機能に触れることで、その価値が広く認知されるとともに、将来の農業現場での雇用・就労を見据えた農業体験等の提供を通じた農福連携の推進や、農園の導入促進による農地の利用拡大も期待される。

## ユニバーサル農園の開設イメージ

### 多様な開設者

NPO法人  
社会福祉法人  
民間事業者  
農業者  
JA  
農村RMO  
都道府県  
市町村 等

### 開設

## 市民農園（農業体験農園）の形態で開設

### 見込まれる効果

※農福連携対策で支援する場合は職業訓練的な農業体験の提供が必須

### 社会参加を促す効果（職業訓練、協同体験の場）

就農へのチャレンジに向けた技術を習得する場（職業訓練的な農業体験の場）や、農作物の栽培や販売、それらを通じた協同体験を通じ、ひきこもりの方など働きづらさを抱える若年・現役世代の社会参加の場を提供

### 予防・リハビリの効果（生きがいづくり）

農作物の栽培や販売、利用者同士の交流による生きがいづくり等を通じ、介護予防や、高齢者、障がい者等の健康増進・社会参加を図るとともに、高齢者、障がい者等へのケアのためにリハビリ等の場を提供

### 癒しを提供する効果（精神的健康の確保）

農業の持つ癒しの効果を通じ、精神的不調により休職している社員等のリワークなど、企業の社員等の精神的健康の確保を図る機能を提供

### 学びを促す効果（農業体験の場）

学生ボランティア等の参画や学校からの協力を得て、子どもが農業を体験的に学ぶ場の提供や、生産された農産物の子ども食堂等への提供を通じた食育の機会を提供

### 幅広い参加・農地の利用

### 多様な参加者

高齢者  
障がい者  
困難を抱える若年・現役世代  
学生ボランティア子ども

- ユニバーサル農園の募集にあたっての障害者等を優先した選考
- 農園の区画の一部に車椅子等が通行可能な園路の整備、障害者の利用に対応した区画等の設置
- 障害者等の利用に合わせた必要な措置が講じられた施設の整備
- 余剰農産物の利用者による個人・共同販売、フードバンク等への提供等を行うことが可能

## 支援

### 農福連携対策等により開設を支援

ユニバーサル農園の導入を進めるため、農福連携対策等により支援（農作業の指導者や福祉の専門家の確保等のためのソフト支援や施設整備の支援等）

## 更なる効果

- 農地の農業的利用の維持と農地の保全（荒廃農地の再利用等による農園の開設による地域の農地の保全等）
- 生産された農産物を子ども食堂、フードバンクに提供（食育、食の支援）
- 余った農産物を農園の庭先等で販売することによる生きがいづくり
- 農業を身近に感じることによる、新規就農者の増加



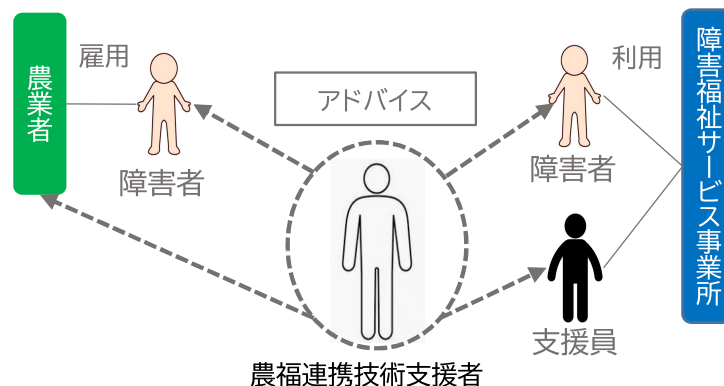
# 農福連携技術支援者の育成

- 令和元年6月に決定した農福連携等推進ビジョンにおいて、「農業版ジョブコーチの仕組みを全国共通の枠組みとして構築し、専門人材を育成する」こととしており、令和2年度から、「農福連携技術支援者育成研修」(いわゆる「農業版ジョブコーチ育成研修」)を全国共通の枠組みとして実施。
- 本研修は、農林水産省が農林水産研修所つくば館水戸ほ場で実施するほか、研修プログラムを農林水産省が策定した基準プログラムに準拠させることで、都道府県が実施することも可能。
- 農林水産省は、全ての研修課程を受講し、必要な知識と技術を身につけたと認められる者を研修修了者として認定。認定された者は、「農福連携技術支援者(農林水産省認定)」として、現場において支援。

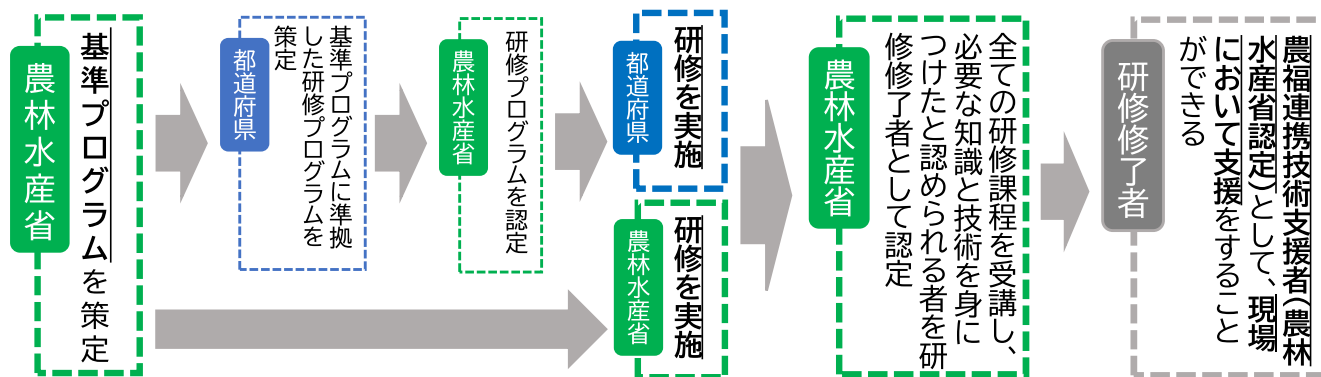
## 1. 育成する人材

### 農福連携技術支援者

- ①農業者
  - ②障害福祉サービス事業所の支援員
  - ③障害者本人
- の3者に対し、具体的に、農福連携を現場で実践する手法をアドバイスする人材。



## 2. 育成の枠組み



## 3. 基準プログラム

### 研修形式と期間

- (1)座学講義3日間程度
- (2)演習・実地研修4日間程度
- (3)修了試験(農林水産省が作成)

### カリキュラム

- ・障害者雇用と障害福祉サービス事業の仕組み
- ・障害特性と職業的課題の基礎
- ・障害特性に対応した農作業支援技法
- ・農業者による農福連携の経営実務
- ・農作業における作業細分化・難易度評価の技法など

## 4. 研修の受講者

### 受講対象者

農業・福祉等の関係者を幅広く想定

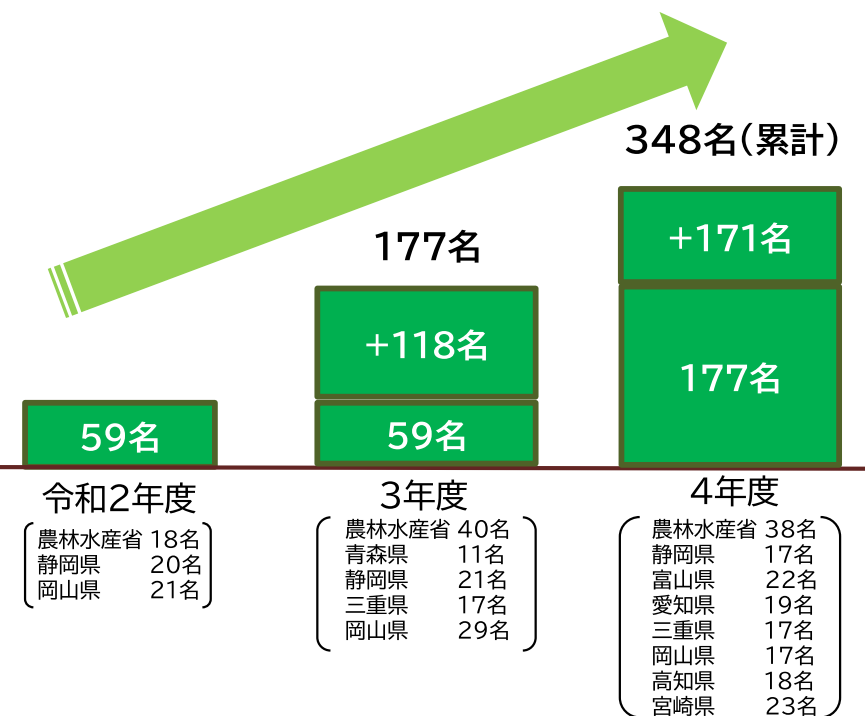
### 受講定員

各回につき20名程度

# 農福連携技術支援者の認定実績

- 農林水産省は、農福連携に係る専門人材の育成のため、令和2年度から「農福連携技術支援者育成研修」を全国共通の枠組みとして実施。
- 令和2年度は、59名の農福連携技術支援者を認定（農林水産省及び2県で研修実施）。  
令和3年度は、118名を認定（農林水産省及び4県で研修実施）。  
令和4年度は、171名を認定（農林水産省及び7県で研修実施）。
- 都道府県においては、独自の農業版ジョブコーチ、施設外就労コーディネーター等の専門人材の育成も実施。
- 農林水産省の研修により農福連携の専門人材を育成するとともに、都道府県の体制構築の支援も行い、都道府県が自律的に専門人材の育成ができるよう引き続き支援。

## ● 農福連携技術支援者数（認定実績）



## ● 農福連携技術支援者研修実施県

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 令和2年度 | 静岡県、岡山県                     |
| 3年度   | 青森県、静岡県、三重県、岡山県             |
| 4年度   | 静岡県、富山県、愛知県、三重県、岡山県、高知県、宮崎県 |



# 農福連携の認知度向上等に向けた取組



# ノウフクWEBによる情報発信

令和3年3月、農福連携に関する情報を一元的に発信するための  
農福連携専用ポータルサイト「ノウフクWEB」を開設  
ノウフク商品を販売するノウフク・オンラインショップともリンク



<https://noufuku.jp/>



ノウ フク



## みんなで耕そう！ ノウフク・プロジェクト

ノウフク(農福連携等)が、社会にうねりを起こしています。

ノウ(自然、農林水産業)とフク(人、福祉)の連携から、多様な役割と場をつくり、一人ひとりの存在を喜べる共生社会へ。地域の様々な課題を解決し、その価値が語られる市場の創出へ。豊かさの意味を問い直す、持続可能な未来へ。

ノウフク・プロジェクトは、ノウフクの価値を循環させるためにみんなが主体になって参加できる、新しい社会デザインのしくみです。

ノウフク・プロジェクトについて



NOW

2023年7月19日

茨城県でマッチングによる農作業受託、4年で3.5倍(茨城新聞)

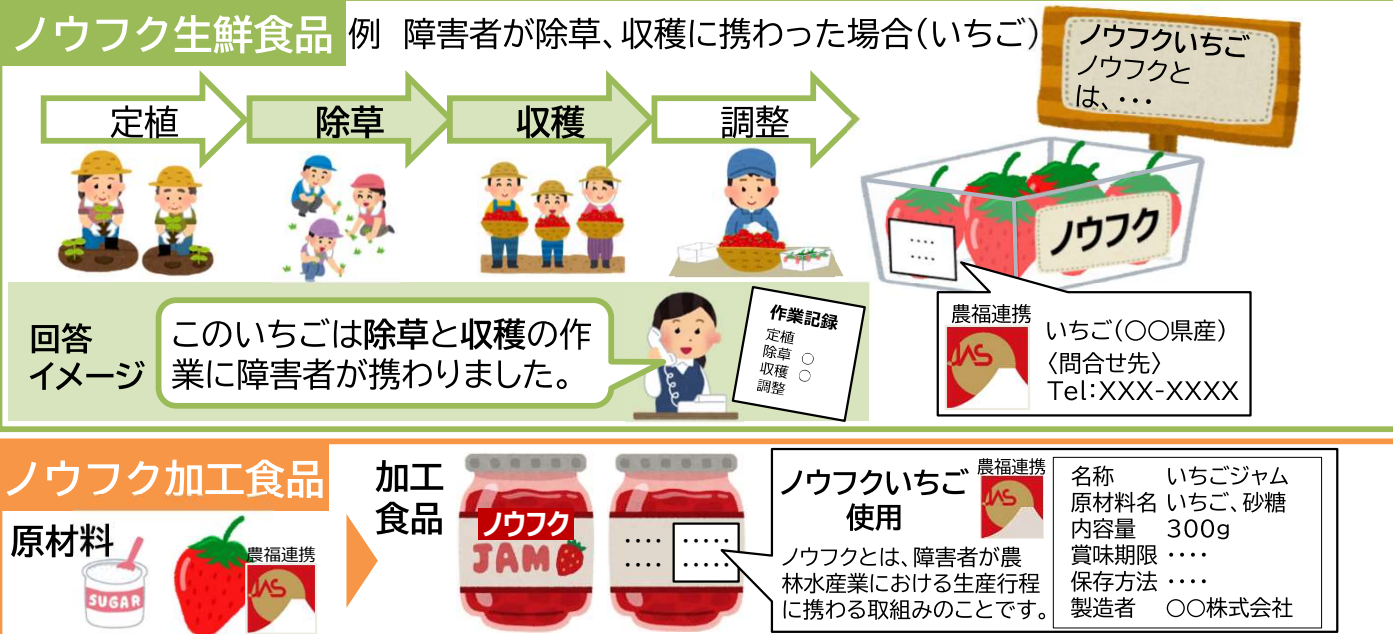
# 障害者が生産行程に携わった食品のJAS(ノウフクJAS)

45事業者が  
認証取得済み  
(令和5年4月)

- 農業分野での障害者就労の支援、農業の担い手不足や障害者の就労先不足など農業・福祉における諸課題の解消につながる「農福連携(ノウフク)」の取組が推進される一方で、ノウフクの取組が広く認知されていない状況。
- 障害者が携わって生産した農林水産物及びこれらを原材料とした加工食品の生産方法及び表示の基準を規格化することにより、次の効果が期待。
  - ① 障害者が携わった食品の信頼性が高まり、人や社会・環境に配慮した消費行動(エシカル消費)を望む購買層に訴求することが可能に。
  - ② 「農福連携(ノウフク)」の普及を後押しすることで、農業・福祉双方の諸課題解決ツールに。

## 規格等の内容

- 農林水産物の主要な生産行程に障害者が携わっている
- 障害者が携わった生産行程の情報提供
- 加工食品において使用する原材料やその管理
- 包装・容器等への表示の方法及び内容





# ノウフクアンバサダーによる情報発信

- 農福連携においては、認知度の向上が課題の一つであるため、「農福連携等推進会議」の有識者を務める等、農福連携への関与の深いTOKIO城島茂さんを「ノウフクアンバサダー」に任命(令和3年10月14日)。
- 「ノウフクアンバサダー」は、ノウフク・アワードへの参加(表彰式のプレゼンター等)、現場の課題解決に取り組む場(ノウフク・ラボ)への参加、ノウフク商品の素晴らしさを伝えるノウフク・マルシェへの参加、その他各種メディアを活用した情報発信の場への参加等を通じ、農福連携の認知度の向上に向けて、農林水産省と連携した活動を展開。

## ノウフクアンバサダー

農林水産省とともに、農福連携の取組の輪の更なる拡大を目指し、情報発信の場への参加等を通じた農福連携の認知度向上に向けた活動を展開します。

ノウフク

農林水産省と福祉がつながって  
日本を元気に!

ノウフクアンバサダー任命状

TOKIO 城島 茂 殿

貴殿を農福連携の一層の推進につながる  
積極的な活動を自ら行い  
「農」と「福」が一体となった  
「Win・Win」の関係の構築に向けて  
共に活動する  
ノウフクアンバサダーに任命します

令和3年10月14日

農林水産大臣  
金子 原二郎

## TV番組によるプロモーション

TOKIOの城島茂さんが農福連携の現場にお邪魔し、収穫作業等を体験しながら、皆さんの笑顔の秘密に迫ります。

「とれたて笑顔！」(R2)



「とれたてハッピー！」(R3)



## イベントでの情報発信

ノウフク・マルシェ



全国の農福連携の取組や商品のすばらしさを多くの人に知ってもらうとともに、農業で活躍する障害者の皆さんを応援することを目的として開催。  
オープニングセレモニーでは、TOKIO城島茂さんが登壇し、農福連携による生産品を紹介。

主催: 農福連携等応援コンソーシアム  
日時: 令和4年10月27日(木)  
場所: 二子玉川ライズ ガレリア



# 農林水産省「消費者の部屋」での展示について

テーマ | 「農業」と「福祉」がつながって日本を元気に！～みんなで耕そう！ノウフク・プロジェクト～

開催日 | 令和4年11月17日(月)～11月21日(金)＜5日間＞

来場者 | 478人

内 容 | 「ノウフク・アワード 2021」受賞事業者のパネル展示や農福連携の取組によって生産された加工品やノウフク JAS 取得商品の展示、各都道府県で作成しているパンフレットの配布及び動画の放映を実施。



障害者の皆さんがいきいきしている  
様子が良い取組だと感じました。

※アンケート抜粋

農業・福祉分野でそれぞれ課題となっていることを  
解決するための素晴らしい活動だと思いました。

地元の取組をもっと知りたいと思いました。

実際に購入したことがある商品が農福連携関連の  
商品として展示されていて驚いた。

実際に作っている商品の展示がよかった。買ってみたい。

障害者のある方とともに働ける環境をつくれたただけで  
もすごいのに、農薬などを使用しない、レベルの高いも  
のを作っていて素晴らしいと思った。

今年度は、10月23日(月)～10月27日(金)に開催いたします！



# 農福連携セミナー、フォーラムの開催について

令和5年度中に、農福連携に関する以下のセミナー、フォーラムを開催予定です。

## 農福連携セミナー

主に、これから農福連携を始めようと考えている方、農福連携に関心をお持ちの方を対象に、第一歩を踏み出すためのオンラインセミナーを開催予定

**第1回 令和5年7月25日(火)13:00～16:00**

総論、農業者・福祉団体・企業等  
による取組紹介

**第2回 令和5年8月22日(火)13:00～16:00**

総論、農業者・福祉団体・企業等  
による取組紹介

(※第1回とは説明者が異なります)

**第3回 令和6年1月を予定**

農福連携への国の支援策等について(仮)

## 農福連携フォーラム

ノウフク・アワード受賞者等の優れた取組を地域で横展開すること等を目指し、ブロック単位でのフォーラムを令和5年9月～令和6年1月にかけて、8都市で開催予定

農林水産省 令和5年度農山村振興交付金事業

農福がはじめてのあなたに。

**農福連携 WEBセミナー**

～農福連携のススメ～

参加費 無料

参加 募集中

開催日時 2023年8/22(火) 13:00～16:00

応募期間 7/25(火)～8/18(金) ※応募者多数の場合は先着順とさせていただきます。

場所 WEB開催 zoomURLは別途事務局よりご連絡いたします。  
※リアルタイム視聴が難しい場合も、お申込み済ますと、後日録画URLをお送りさせていただきます。

セミナー内容

農福連携に興味のある方々に向け、【総論】【福祉団体】【農業者】【企業等】の各観点から、講師による基礎的な内容や具体的な事例までがわかるWEBセミナーを開催します。

- 【総論】 農業者、福祉関係者、障がい者、保護者目線からみた農福連携  
群馬大学 農学部(北海道江別市) 教授 義平 大樹氏
- 【福祉団体による取組】 フラワーパッケージセンターの地域に密着した農福連携の取組  
社会福祉法人ハイジ福祉会(福岡県八女市) 施設長 山口 隆充氏
- 【農業者による取組】 農業が果たす地域福祉への関わり方  
株式会社林野(岩手県花巻市) 代表取締役 安藤 誠二氏
- 【企業による取組】 「ありがとう」の気持ちを込めて～私たちの農福連携～  
はーとふる川内(徳島県板野郡北島町) 代表取締役社長 山田 圭吾氏
- 農林水産省からの情報提供
- ワークシート&フィードバック  
本セミナーで得た知識を整理し、考えを深めるためのワークと、義平氏によるフィードバックの時間をご用意しております。  
※セミナーの内容は予告なく変更する場合がございます。

受講対象 農福連携に興味のある方全般 農業者、社会福祉法人、企業経営者・担当者等 どなたでもお気軽にご参加ください！

お問い合わせ先  
株式会社農都共生総合研究所  
TEL 03-3868-0889  
E-mail noufuku@notosoken.jp  
営業時間 10:00～18:00  
※土日祝・年末年始を除く

主催 株式会社農都共生総合研究所

←申込はこちらから！

講師プロフィール

義平 大樹氏  
群馬大学 農学部(北海道江別市) 教授  
専門は食や食糧を中心とする作物学。若い手不足を解消し、農業を持続的に発展させるべく、農産物の生産と加工に関する。北海道を中心とした農福連携に関する講演活動の他、研究実業を両立した農産物と加工品の開発を行っている。

山口 隆充氏  
社会福祉法人ハイジ福祉会(福岡県八女市) 施設長  
2007年に社会福祉法人ハイジ福祉会を設立。2014年に経営戦略策定「フラワーパッケージセンター」を立ち上げる。JAふくおか八女支店と提携し、地元産のトマトとトマトの加工品「トマトジュース」の共同開発・販売を開始。2016年には、若い世代を支援する「はーとふる川内」の開設により、地域に密着した農福連携の取組を開始。2017年には、はーとふる川内の開設により、地域に密着した農福連携の取組を開始。2020年には、はーとふる川内の開設により、地域に密着した農福連携の取組を開始。

安藤 誠二氏  
株式会社林野(岩手県花巻市) 代表取締役  
農山村の豊かな自然を生かし、水耕栽培やベランダ型プランターを生産している。障害者の地域外販売として農福連携を始め、現在では栽培工程全般に携わっている。日々、障害特性に応じた作業改善を行い、障害者が活躍できる環境整備を行っている。

山田 圭吾氏  
はーとふる川内(徳島県板野郡北島町) 代表取締役社長  
2011年に設立された大塚製薬株式会社の持株子会社で、ノーマイン・ゼロの理念のもと、「はーとふる川内」の事業開発を行っている。生産したトマトは企業グループの食料品に利用されるほか、農産物として販売される。2016年には、若い世代を支援する「はーとふる川内」の開設により、地域に密着した農福連携の取組を開始。2017年には、はーとふる川内の開設により、地域に密着した農福連携の取組を開始。2020年には、はーとふる川内の開設により、地域に密着した農福連携の取組を開始。



# BUZZMAFFによる情報発信

「BUZZMAFF」とは、農林水産省職員自らがYouTuberとなり、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農山漁村の魅力を発信するプロジェクトです。

「農福連携に取り組む現場を体感してもらうこと」をテーマに動画を作成し、情報発信しています。



## 「公務員の4時起き出張 in京都」

ノウフク・アワード2021のグランプリを受賞したさんさん山城を訪問し、ろう者の皆さんと手話を用いながら京野菜の定植を行う様子などを通じて、農福連携やさんさん山城の取組をご紹介します。

## 【全力】白石がお店を盛り上げてみた

農福連携に取り組んでいる事業者が製造した商品をMUJI新宿の「つながる市」で販売した際の様子を取材し、事業者や消費者の皆さんと交流しながら農福連携の取組をご紹介します。



約18万回再生!



<https://www.youtube.com/watch?v=5LeZhRD6KhM>



約3万回再生!



<https://www.youtube.com/watch?v=FOtwrVKyFvE>